

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和4年度 第1回文化芸術推進審議会
開 催 日 時	令和4年8月5日(金) 午後 1時30分から 午後 3時30分まで
開 催 場 所	吉川市役所 2階201会議室
出席委員(者)氏名	高田明充委員、廣瀬正子委員、渡辺弘委員、金澤美智子委員
欠席委員(者)氏名	小松弥生委員
担当課職員職氏名	生涯学習課 岩上勉課長、山崎弘輝主査、新井瑞穂主事
会議次第と会議の公開又は非公開の別	<p>《会議次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 委嘱式</li> <li>2 あいさつ</li> <li>3 開会</li> <li>4 自己紹介</li> <li>5 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 正副会長の選出について</li> <li>(2) 文化芸術推進基本計画の策定について</li> </ol> </li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol> <p>《公開又は非公開の別》</p> <p>公開</p>
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	
傍聴者の数	0名
会議資料の名称	<p>次第</p> <p>令和4年度文化芸術推進審議会諮問書</p> <p>令和4年度文化芸術推進審議会資料</p>
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録

会議録確認指定者	廣瀬正子委員、金澤美智子委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	<p><b>1 委嘱式</b></p> <p><b>2 教育長あいさつ</b> あいさつ後、教育長退席。</p> <p><b>3 開会</b></p> <p><b>4 自己紹介</b></p> <p><b>5 議事</b> 会議録署名委員の指名について、廣瀬委員、金澤委員を指名。</p> <p>(1) 正副会長の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立候補・推薦なし</li> <li>・事務局案提示 会長に高田委員、副会長に渡辺委員</li> <li>・全員一致で事務局案賛成</li> </ul> <p>(2) 文化芸術推進基本計画の策定について</p>
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明を求める。</li> <li>・資料に基づき計画概要説明。</li> <li>・事務局内で議論があった部分について2点ほど説明させていただく。</li> <li>・初めに計画案の1頁について、文化芸術の“活用”または“推進”、どちらの表現が良いか。計画案では“推進”とさせていただいた。表現についてどちらが良いか、あるいは他に良いアイデアがあるか。</li> <li>・次に19頁の「進行管理と評価」についてだが、評価を数値化するか否かというところで議論があった。数値化するとその数値の達成に引っ張られてしまうこと、また数値自体も社会情勢に左右されやすく、計画案では数値目標を示していない。数値目標は結果の見える化という点ではメリットがあるが、事務局案では、実施した計画・事業をレポート形式にまとめる方法ではどうかと考えている。以上2点について、ご意見を</li> </ul>

<p>高田会長</p> <p>廣瀬委員</p>	<p>お願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後に、小松委員からいただいたご意見をポイントに絞ってお伝えさせていただきたい。</li> <li>・資料の1頁について、“振興”“推進”という言葉に具体性がないのでは。</li> <li>・2頁、文化芸術基本法の説明より吉川市の文化芸術の基本的な方針を掲載した方が良いのでは。</li> <li>・3頁、国全体のことでなく、(1)文化芸術を巡る現状と課題及び(2)吉川市の現状と課題を一体化して、吉川市におけるコロナの状況や人口推移を掲載してみてもどうか。</li> <li>・5頁、イ後段は計画を策定する前の現状を述べる部分であり、違和感がある。周知だけではなく、実行することが大切。</li> <li>・7頁、文化芸術の活動場所だけではなく、これまで蓄積してきた演劇プロジェクトや文藝よしかわのような作品集、その活動も文化資源とは言えないか。</li> <li>・9頁、「鑑賞・参加する」という表現があるが、もう少し市民が主体的に活動するイメージを出したい。</li> <li>・11頁、「イベント」について、ないよりはあった方が良いが、一過性で効果が薄い。継続して市民が関わるプロジェクトが必要。</li> <li>・13頁、施策の展開について、情報発信だけではなく参画できるようにする必要がある。</li> <li>・14頁、情報の収集と発信について、市民が発信する場合の記述がないので、(5)発表・鑑賞の機会の充実かどちらかにその記載を。</li> <li>・17頁、「様々な場面で活用し『、そのことが、文化芸術の充実につながるような良い循環を生み出すようにし』て…」と追記し、文化芸術の活用が、文化のためになることを明記してほしい。</li> <li>・18頁、②協働による計画の推進とあるが、協働に関する内容が見当たらないのでその仕組みづくりが必要。</li> <li>・学校教育を巻き込み、吉川美南高校との連携など、子どもたちにも聞いてみては。</li> <li>・“推進”か“活用”か、という点では活用が良いのでは。</li> <li>・目標に関しては、数値に固執してしまうことは確かにあるが、計画を推進した結果、こうなることまでは目指すというものはあっても良い。4年間でここまでやりたいというものがあっても良いと考える。</li> <li>・なるほど、という貴重な意見をいただいた。委員の皆さまから何かあるか。</li> <li>・文化財について、学校教育との連携があっても良いと思う。市の文化財</li> </ul>
-------------------------	---

事務局	<p>は、きっかけがないと観る機会がない。お花と文化財の展覧会を一緒に開催した時は、お花しか興味がない人にとって、市には立派な文化財があると知るきっかけになった。学校教育と連携することで、そういったきっかけ作りを検討してみてもは。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の関係では、去年、一昨年と、市役所のコミュニティルームで「文化財展」を開催した。所有者の方から許可を得て、市役所での展示を試みはじめたところ。市には44点ほど指定文化財があるが、それらを知る機会は少ない。そういった展示会や、文化財を紹介する冊子、あるいはデジタル的なものでまとめた方が良いのか、色々と考えながら、吉川市にはこんなものがあると、新しい住民の方たちにも知っていただける機会の創出を計画に盛り込みたいと考えている。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財の目録冊子を先日いただいたが、たまたま市役所に行ったからいただけたもの。SNSの活用のほか、広報が全戸配布されていることを活用し、経費の面が大変だが、そういうものを全住民に配るとかも周知方法の一つだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前、広報の企画でよしかわ今昔というコーナーがあったが、今は広報誌でお知らせすることが多くなり、紙面確保するのが難しくなりました。広報誌が良いのか、他の手法が良いのかということも含めて、何か発信していくことが必要と考えている。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこかで周知しないと忘れ去られてしまう。吉川は農業で成り立っていたまちだということや、その歴史・文化を知って欲しい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉川の成り立ち的なものをまずインプットして、今はこうですよとか、糺家とか福寿家といった歴史ある料亭がなぜ吉川にあるのか、その裏には江戸時代以前からのお米の産地であることなどを伝えていきたい。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>中川があって、船着き場がある理由とか、一つ一つは分かっているけど、その繋がりを知ることが必要と文化財に関しては感じている。</li> </ul>
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>歴史があるのでそれを知らないのはもったいない。</li> <li>子どもたちにも、吉川市ってどんなまちなんだということを知ってもらうことが必要と考えている。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今の学校教育にあるかは分からないが、一年に一回は市の勉強の機会があればと思う。学校のカリキュラムも大変だろうから、負担にならない範囲で。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>いまはコロナ禍でできずにいるが、郷土資料館に関小学校と栄小学校の子どもたちが社会科見学に来て、専門員が説明するというところを行っている。他の学区も含めて、タブレットが普及しているので、配信も検討して良いのではと思っている。</li> </ul>

金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財は、個人所有の物を借用するものと思っていたが、それを市で集約する予定はあるか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化財は、古文書みたいな物や大イチョウなど、色々ある。市でその文化財を見るツアーを企画するときは、たとえば屋外でみられるツアーなど様々な形態がある。直近の展示会では、勝海舟の書を個人所有者からお借りして、それを展示して、市内の歴史ある小学校の紹介も行った。その展示会が終わってしまうのがもったいないということで、廣瀬委員が先ほどおっしゃった目録にまとめたものが教育委員会に配架してある。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>もっと市民が手にとりやすいところに配架した方が良いのでは。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日委員の皆様にお持ちすれば良かった。一部の学校からは、その目録を教材に使えないかと打診が来ていたりする。そういった展開も今後考えられる。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>公民館とかそういった市民の目に触れやすいところにも置いてあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの部数を用意しているものではないため、配架はしていない。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>市のホームページにも掲載されているものか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>そういうことができればと考えてはいるが、個人所有の物をデジタルデータとして表示するには、それぞれの所有者から許可を取らなければいけない。今回は、紙媒体では許可がもらえたので、手作業のため多くは刷れないが、生涯学習課で刷らせてもらった。そういったやりとりが整理つけば、デジタルデータ化は可能である。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の目録は誰が作成しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習課の文化財保護担当が作成している。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>こういった物を事業に活用するため、それぞれの担当が作っているということだろう。文化財や教育部署の担当SEなどがいれればと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>よくあるのが、団体への業務委託である。文化財に限らず、市史などの収集を代わりに請け負って、編集してもらおう。お金をかければそういうところに委託することもできる。現状、手刷りで刷れる分だけということをやっているが、デジタルアーカイブ化などが視野に入ってくれば、計画にあるのでと、予算化しやすくなると考えている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>県などからのフォローはないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>助言はいただけるが、補助金は難しい。県の文化財となれば県の補助も入るが。市の大イチョウは県の指定文化財でもあるので、樹木の健康状態の診断などは、県からの助成もある。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>貴重な文化財が色々あるだろうが、たとえば先ほどの「勝海舟」とか、歴史に名のある方の名前が出てくると興味がでるといえるか、興味を示す</li> </ul>

<p>廣瀬委員</p>	<p>のでは。そういったものをオープンに知らせていくと良いのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化財展は、今回は小さな形で実施したが、吉川は広いので、美南の方の場所を借りたり、あの展示会を何か所かで企画するとより多くの人にも見てもらえるのでは。あれだけで終わるのはもったいない。</li> </ul>
<p>高田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かに美南の人たち、新しい人たちに見ていただきたい。何かの資料で見たが、大正天皇が越谷の鴨場に行くのに吉川に泊まったとか、それも船でここまで来るとするのは、吉川の交通の要所だったのかなと思う。そういった繋がりも知ってもらいたい。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の方が吉川に住んでいて良かった、もっと何か知りたいなという発信をする。発信の方法、何を発信するかは色々考えていく必要はあるが。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県も去年計画を出して、全国的にも出している。ほとんどが少子高齢化とコロナを書いている。前提として、小松委員のご意見のように、そういった記載が必要なのか。国だとオリンピックのレガシーも書いてあり、この間、障がい者の条例も触れた方が良くと思うが、全国の市町村がこの計画を作り出している。これを御旗に皆やっていこうということなので、課題は同じで、載せても載せなくても良いと考える。「策定にあたって」に書いても良いし、県も文化の現状こうなんだ、と書いている。そして自分のところはこうであるというのが大体の流れなので、ほとんど一緒である。あと個別の状況になる。また、事務局より説明のあった“推進”か“活用”かについては、活用が良いのではないかと思います。</li> </ul>
<p>廣瀬委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1頁の、この文の手前の内容も踏まえると、推進、推進と続いており、活用が良いのではないかと。</li> </ul>
<p>金澤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標に関して、数値目標を設定するかについては、そもそも文化芸術と数字は相性が悪いことは分かり切ったことなので、割り切って数字にしても良いと考える。それを皆が分かり易いようにと、文化芸術の良さを伝えるとなると難しいと思う。レポートで示すということもすごく難しく思うので、分かり易さで数字でも良いのでは。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国は、文化について、数字がないから分からないとなっており、数字が求められている。大きい助成金を国から出しているが、その効果があるか、財務省から数値化を求められている。県の5か年、10か年計画においても、それが5年後にどれくらい増えたのかというのは、必ず数値化と言われて、去年意識調査を行い、アンケートの仕方、何を聴くかにもよるが、それを定期的にやるというのは分かり易い。関心が高まったとか、何で情報を得るか、というデータが取れる。いま、それは圧倒的にSNSになっている。時々そういった調査を実施してみてもと思う。</li> </ul>
<p>廣瀬委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>私たち高齢者のようにデジタルが得意でない人もいるため、目で見ると</li> </ul>

<p>金澤委員 渡辺副会長 事務局</p>	<p>の媒体も必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS、紙媒体、どちらか一辺倒だと偏ったものになってしまう懸念がある。</li> <li>・それもあって、数値とレポート、両方あった方が良いのでは。</li> <li>・数値だけでなく、取り組みについての評価もして、進捗状況を確認していくということで良いか。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与野本町の劇場も、一番いらっしゃるのが60代、70代ということが分かる。一番来ないのが30代、つまり子育て、小さい子どもたちがいる世帯が来ないということが分かる。それらの世代が増えました、というのが分かった方が良いのか、3年ごと、5年ごとにやると、分かり易いと考える。</li> </ul>
<p>事務局 渡辺副会長 高田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年ではなく、少し時間をおいて、効果がどう表れたかということか。</li> <li>・すぐには変わらないものと考ええる。</li> <li>・30代の方が来るのが少ないと。これをテーマに、増やすためにはどうしたら良いとか、そういう目標も一つに考えられるだろう。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我々の事業についても、子どもを対象とした事業を企画すると、まさにそういった世代の保護者も一緒に参加してもらえる。特に夏休みはそういった世代向けのイベントを実施している。それ以外は難しい。</li> </ul>
<p>高田会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化祭の開会式も人がいないが、開会式直後に子どもの発表を入れると、色々な人たちが参加してくれる。</li> </ul>
<p>廣瀬委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副会長のご意見がすごく的確で、何とかしようと思って、いま会長が述べたような取組を行った。ところが、子どもたちの発表が終わると、すぐに帰ってしまう。一日いるのは我々のような高齢者になってしまう。それはどこでも一緒だと思う。何とかしないと、我々文化芸術の活動団体は先細りになってしまうと危惧している。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廣瀬委員のおっしゃった意見が重要で、県も、文化芸術の担い手の育成支援をはっきり打ち出しているのだから、子ども達を育成するとか、強いことを入れても良いのでは。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本案はたたき台として考えているので、どこに力点を置くかということに関しては、参考になる意見だと思う。子どもたちに何か力を入れて取り組めば、その子どもたちが大人になっていく中で、活動をしていくということが自然にできていくかもしれない。</li> </ul>
<p>渡辺副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者世代が子どもたちと一緒に、教え、教わるみたいな場をもっと作っていくのが重要だろう。</li> </ul>
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡辺副会長のおっしゃるとおりで、高田会長はそれを積極的に仕掛けていただいている。金澤委員も、子どもたちの作品を発表する場を設けられているので、そういったところに力点をおく計画も良いと思う。</li> </ul>

金澤委員 廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちも、そういった活動は好きである。</li> <li>・学校の体験教室で、生け花は人が多く集まる。コロナの影響で2年実施できていなかったが、9月に中曽根小学校で予定している。今までのように土曜日休みの時に、わざわざ出てくるのではなくて、学校の5時間目がない日を選んでという方法である。今までは1年生から6年生全員来ても良かったが、高学年だけになってしまい、それが残念と思うが、それでも、12人来るといっているので楽しみである。PTAの保護者の方たちも楽しみにしており、こういったきっかけで、お花を好きになってもらえれば良いなど、その一心でやらせてもらっている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そこで花を生けたという経験をした子どもたちは、どこかでまた、生けてある花を見て、あの時、私はこう生けたけど、こんな綺麗な生け方があるのかと、興味を膨らませ、繋がって行って欲しいと思う。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休日の文化部の地域移行がメディアで話題になっており、そういったことも含めて、文化を学校任せではなくて、地域で守るということも必要に思う。学校の先生も負担が大きいだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平日でも学校にアクセスして子どもたちに教えられるような仕組みが整うと、また違ってくるかと。その一つのきっかけになるものと考えている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室での企画があった時に、文化連盟の加盟団体の我々がその企画に携わるのであれば、事業とかそういったことではなくて、たとえば字を書く楽しさとか、絵を書く楽しさとか、歌を歌う楽しさとか、そういったものを子どもたちに伝えられれば、我々の立場として、良いのではないかと思っている。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生方も、文化芸術に関連した教科を皆が得意なわけではないので、放課後に限らなくても良いと思う。日中の授業に入っても良いのでは。私自身、言ってくれば、いつでも手伝おうと思う。逆に、放課後は自分の授業として教室をやっており、手伝いにはいけない。学校参観に行くと、先生の得手不得手がクラスを見ればわかる。コロナの影響もあるだろうが、コロナ以前はミシンのお手伝いに行っていたこともある。コロナが落ち着いたころには、プロ級の高齢者の方もたくさんいるので、そういった方にも入っていただければと思う。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金澤委員の話を知ると、そういう方はいっぱいいると思う。そういった方たちが教えることで、子どもたちが、こんなこともできるのかと発見できる。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう方のリストはあるのか。話ずれてしまうが、そういうリストがあつて、ボランティアで午前中2時間くらい教えるよと、子どもたちがそこに来るといふ、そういったことも仕掛けてみてはどうか。</li> </ul>

事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今あるものは、市民の方が、何かこういう活動をしたいというときに、たとえばサークルを使いたいときに、誰にお願いしたら良いだろうと、そういうリストはあるが、子どもたちに何か教えられるかというリストはない。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化連盟さんは、市と連携して、一年間のうち、この教室に教えに行くということができれば、子どもたちへの振興の底上げはできると思う。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おあしすの改修はあまり期待しておらず、人間にお金をかけるべきだと思う。それこそ教室をおあしすでやりたく相談したこともあったが、営利団体だと値段が倍になるということで、実施に至らなかった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館は社会教育施設のため、営利事業はできない。おあしすは、社会教育施設という位置づけではないため、営利団体も利用できるが、使用料が高くなる。ただ、使えないわけではないという位置づけなので、金澤委員がご利用を検討されたときは、サークル活動のような社会教育活動ではなく、営利事業だという判断で、施設使用料が高くなるというご案内だったのだろう。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しづらいと思い、公民館は公民館で、サークルでもないのに、利用できずということもあり、作品をまちに持って行っているということもある。お店とかの方が飾ってくれる。子どもの作品を受け入れてくれるというのもあり、美南に新しくできる文化施設は使いやすくなって欲しい。委員の皆さんが意見を言っていると思うが。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が利用しやすいようにということで、大きな施設はホールにお茶するところがあると思う。そういった施設があると、稽古前に集まってとか、若い人たちも集まりやすいのでは。東口にできる施設にはそういったものができることを期待する。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この計画を作る事で、そういったことの機運も高まり、予算化にも結び付きやすくなるのでは。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確かに、計画に載せることで、予算化しやすいということもでてくる。おあしすの改修については、主の目的が長寿命化のため、埼玉芸術劇場さんもこの10月から劇場の改修に入るので、おあしすの改修の参考にしようと思っており、情報を劇場さんから恵与いただいているところ。東口の文化施設については、公民館、おあしす、そういった施設で受けきれなかったものを、ここで受けられる、そういった施設にできればと思っている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう色々な意見を集約していくと、文化条例の前文、吉川らしさという部分になってくると思うが、吉川独自のやり方が、できるのでは。人の活用、場所の活用、そういった中で、地域企業という部分を考える</li> </ul>

事務局	<p>と、吉川美南のイオンタウンさんは、前向きに協力いただいている。それが負担になってしまっはいけないが。そういった場所も使えるのであれば、吉川独自の推進、活用ができるのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオンタウンさんは文化連盟さんの展示を行っていただき、華道、陶芸の展示にも協力いただいている。そのほかイオンタウンさんは、展示用のパネルも購入され、色々積極的に受けてくださっている。この条例上も、事業所との連携は定めており、イオンタウンさんに限らず、そういった事業所との連携も、計画の中にうまく入れて、協働で何か、文化芸術を盛り上げていければと考えている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金澤委員もおっしゃっていたが、子どもたちの発表の場として、イオンタウンさんに協力を相談できるのでは。私もこの計画を読み、文化の活用・推進、色々考えて、基本は何か、と考えると、人の居場所作りではないかと考える。文化と大きなテーマになっているが、人が集まる所に何かそういった文化が発生するのではと考えると、たとえば、生涯学習課と市民参加推進課、自治会などとも連携できれば、居場所づくりという点で、一つの文化の進め方も見えてくるのではないかと。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会だけではできないこともでてくると思うので、他の部署との連携も重要になってくると考えている。情報発信という話もあったが、市が発信している情報発信の方法も多岐に渡っているなので、そういったところでも連携しながら、市民にとって分かり易い情報発信にも取り組みたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割りでやってしまうとそうなるので、たとえば、商工課のフォトコンテストも、カレンダーだけではなくて、発表する、展示するというのを教育委員会と連携できればと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商工課では、フォトコンテストという事業があるが、それは入賞作品をカレンダーにして手に取っていただく事業で、市の施設で展示、ということになると生涯学習課が担える部分もあると思う。商工課も、吉川市のシティプロモーションにも繋がるというところで力が入っていると思うので、連携できればと思う。</li> </ul>
渡辺副会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どこの部署が担当しているのか。</li> <li>・シティプロモーションは政策室の広聴広報部門が担当している。いま、その部署でもどこに向けてシティプロモーションするか、ということも改めて考えている。市の総合振興計画の基本理念にある市民の幸福実感を高めることに繋げられるようにと考えている。</li> </ul>
高田会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ぜひ進めていただきたい。</li> <li>・文化連盟さんのことについても計画に盛り込ませてもらったが、何かご</li> </ul>

	意見はあるか。
廣瀬委員	・この通りだと思う。特に最後の課題についてはこの通りだと思う。顕在化しているから、これからどうしていくか。
高田会長	・市民の文化芸術に触れあう機会について言えば、最後の文化芸術に触れ合う機会の回復、多様なニーズに応える、それらが必要と思う。
事務局	・そこに記載のとおり、市では市民意識調査を用いた文化芸術に関する市の取組調査を毎年行っている。毎年行っていることに加えて、さきほどいただいたご意見のような調査を3年ないし5年ごとに行っていくことで、市の取組結果が見えてくると思う。
渡辺副会長	・そのアンケートが市民のニーズを拾えるようになれば良いと思う。文化連盟さん以外の活動はないのか。
事務局	・公民館、おあしす等を利用している団体は他にもある。文化連盟に所属している団体が多いが、そうでない団体もある。文化連盟さんに所属していない個人、団体の情報をどう収集するか、それも課題となっている。
廣瀬委員	・文化連盟も同じ考えである。
渡辺副会長	・どこかその情報を把握している部署はないのか。
事務局	・公民館は団体登録しなければいけないため、どの団体が文化連盟に所属しているかまでは把握していないが、そういう情報は公民館が一番持っている。
廣瀬委員	・公民館活動していなくても、文化祭に出演・展示する団体さんもいるので、そういった団体にもアプローチできれば。キッズダンスの団体さんが、文化祭の実行委員会で、去年文化祭が中止となったとき、これが一番楽しみで公民館の発表会がないと残念と言っていた。発表だけは公民館を使っている、そういう人たちも巻き込む計画を作れば。そういった人たちもうまく巻き込まないと、やりたい人だけの計画になってしまう。
事務局	・キッズダンスの人たちもやりたい人の部類になると思うが、今まで文化芸術に触れてこなかった人たちにどう触れてもらうか、そういったところまでいきたいと考えている。確かに文化祭しか発表の場がない人たちもいるので、ウイズコロナという中で、どうやってその発表の機会を確保していくか。その手法をどうするか。やめるのではなく、どうやったらできるかという方向性で計画に盛り込んでいけたらと思う。
渡辺副会長	・それが9頁の基本理念にもある、文化芸術活動の推進にもつながるだろう。
高田会長	・ほかに教育大綱、それもどのように考えていくか。吉川市は良いまちだと、志をもって活動できると、歌にしても、踊りにしても、子どもたち

	<p>の環境づくりを、大人たちがどう文化を組み合わせるまちづくりを進めていくか考えなければ。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>吉川市の教育大綱は、目に見える学力だけではなく、非認知能力をどうやって育成するか、どう伸ばしていくかというところが大きな課題、テーマになっている。そういった中でこの文化芸術活動は、子どもたちの非認知能力を伸ばすような、そのような可能性があると思っているので、学校での勉強だけではなく、文化芸術に触れることで、数字的に出るものだけでなく、測れない非認知能力を子どもたちがどう伸ばしていくか、ということもこの計画に含ませることで、教育大綱への対応もできるものと考えている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術は、魅力あるまちづくりに繋がる、一つの武器じゃないかと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>いただいたご意見から、文化祭や施設利用者へのアンケートで、文化連盟さん以外の意見も捉えることができると分かったので、そういったものも活用しながら、良い計画となるよう検討を進めていきたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化連盟に加入していない団体に連盟への加入を促すこともあるが、なかなかうまくいかない。メリットは、という話にもなる。</li> </ul>
廣瀬委員 金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術はお金ではないので、そこを理解して欲しいとは思う。</li> <li>私は、習い事としてお金を払ってきている子どもたちの保護者さんだからか、お金じゃないという方たちばかりである。私自身、市民文化祭に出したこともあったが、個人で出している人は少なく、出しづらかったおぼえがある。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>そういった人々を掘り起こしたいのが、市展。市展は県展と同じように千円をご負担いただき、審査をして、審査したものを展示する。これまでと違った試みをすることで、新しい人が参加する機会が持てたらなと思っている。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前金魚の展示をされていた方もいたが、あの方も個人である。多くの方に市民文化祭を知っていただき、個人の間口が広がればと思う。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>掘り起こせば多くの方がいると思う。私の知り合いにもいるが、なんで出さないのかという人も多い。それこそSNSなどで発表している。あとはイメージが先行しており、そういったイベントにはベテランや団体でなければだめだと思っており、知らないのだと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>確かに、文化祭は団体で活動していなければ発表できないと思う人もいるかもしれない。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>何かの会議で伝えたが、公民館に行かなければ分からない、そういう部分も参加しづらさを生んでいるのかもしれない。</li> </ul>

廣瀬委員 事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画でいうところの情報発信に繋がるだろう。</li> <li>・文化芸術活動をしている方たちが、初めて作品を出してみたい、そう思った人たち向けの情報発信も必要かもしれない。</li> </ul>
高田会長 廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういった形で敷居が低くなれば、色々な文化が広がっていくだろう。</li> <li>・舞台だって、ちゃんとした演劇ではなく、寸劇みたいなものでも、大きなところではなくとも、それこそお笑いの人とか、何かできる方がいて、発表できたらと思っている人がいるかもしれない。色々なひとたちが発表できる、利用できる、そういったことを広報できればと思う。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その通りで、それがなかなか難しい。私たちもその悩みは一緒である。舞台などを観に来る方の年齢は上がってきている。若い人に向けてSNS、フェイスブックやTwitterを活用しているが、届いているのか図りかねる。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私事で恐縮だが、私の子どもも舞台をやりたいが、忙しく、時間の都合がつかないと言っていた。時間が空き、やりたいと思った時にその機会があればと。計画にも書いてあるが、現役を退いた方たちが何かやりたいと思ったときに、どうするか。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き盛りの方でも、息を抜くことができることを一つでも見つけられれば、またその普段の仕事も頑張ることができるのでは。若い保護者の皆さんは、住宅ローンだったり、子育てだったり、色々思うと大変だと思う。好きなことが一つあると違うと思うので、そういうこともこの中に入ってくれば。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居場所づくりの発信ができればと思う。そうすることで、文化も進んでいく形が見えてくるのではないかと思う。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年、10年はかかるだろう。時間は必要だが、やらなければいけないと思う。</li> </ul>
高田会長 金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一日始めるのが遅くなれば、一日遅くなってしまう。</li> <li>・小さいお芝居とか、選べたら良い。立派じゃなくても、こぢんまりしたものであれば、見たいという声もある。カフェに飾るとか、公共だけではなく、個人商店でやらせてもらえるとか。音楽の発表とか、駅前のお店の飲食店の2階も使える。お店を使って、小さなコンサートとか、忙しくても、この曜日のこの夜ならいけるな、とか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の飲食店で、そういうことができることを知らないと思う。市の施設だけでなく、民間施設でもこういうことができる。</li> </ul>
金澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう情報が欲しい方はいると思う。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしもだいぶ経ってから知った。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つアンケートを行うようだが、何を知りたいか。無作為の市民アンケ</li> </ul>

事務局	<p>ートも欲しい。何か一般の人の意見が分かれば良いだろう。難しいか。選挙の電話アンケートを初めて受けたが、これかと思った。五百から千人くらいあれば良いと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ということを思っているのか、進捗状況の管理の中で必要になってくるだろう。評価に関して、文書にするのか、数字にするのか、事務局の方でいただいた意見を踏まえて検討したい。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般の人という意味では、ご家族でも良い。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 駅前の広報よしかわのラックを教育委員会が使っても良いのでは。アンケート用紙を入れておくとか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の家族アンケートは盲点だった。参考にさせていただく。</li> </ul>
廣瀬委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校関係のアンケートは、保護者に回答してもらうという方法もあるだろう。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ QRコードを使って、簡単に回答できるものを提供できるかもしれない。無記名であれば個人情報の問題もクリアできそうである。</li> </ul>
渡辺副会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アンケートはなかなか回答してくれないこともあるので、ぜひ工夫をして。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局の方でいただきたい意見を多々いただけた。今日のご意見を参考に、計画案の修正作業に入っていきたい。</li> </ul>
高田会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見も出尽くしたようなので、事務局に進行を返す。</li> </ul>
事務局	<p><b>6 その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次回は12月下旬頃を予定</li> </ul>
事務局	<p><b>7 閉会</b></p> <p>副会長よりあいさつ</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和4年9月14日</p> <p>署名委員 金澤 美智子（自署）      署名委員 廣瀬 正子（自署）</p>	